

元気

まち物語

2014.1

下関マジッククラブ

人で行くこともあれば、個人個人で依頼を受けてステージに立つこともあります。多い人だと年間20回以上もステージに立つそうです。皆さん、あちこちで大活躍です！

どうして習得しているの？

12月のある日の夕方、私は下関マジッククラブの皆さんを訪ねました。彦島公民館の研修室のドアからめれる明かりの方へ近付き、「こんばんは」とドアの向こうに一歩踏み込むと、そこには手から巧みに飛び出す「マジック」の不思議な世界が広がっていました。

まずは日々の研究から

昭和40年4月に設立された同クラブには、現在、マジックが大好きな10人が所属。月2回の定例会でメンバー同士がマジックを披露し合い、練習の場になると同時に「こうした方がもっと良くなるのでは？」「こんなアレンジにしたらいいかも！」といった研究を行っています。その成果は、各地のイベントや施設訪問、老人会や子ども会などで発揮され、大好評とのこと。イベントなどへは、会員数

「披露した時の皆さんの反応が良いとすごくうれしい。それがいいんです！」と、メンバーの一人がとてもうれしそうに話してくれました。見る人の笑顔で、自分も笑顔になる。これもマジックの魅力の一つなのでしょう。
では、一体どこでそのマジックを習得しているのでしょうか。一年に4～5回、プロマジシャンの講習会などに参加しているんです」と教えてくれたのは会長の園田文夫さん。覚えたマジックを定例会で披露し、他のメンバーがそれを覚える。すると、個々でステージの依頼を受けたときに、それをいような場所で披露することができるよう。そうやって、一人でも多くの人がマジックを楽しめるよう活動しています。ちなみに、マジックの道具を身近な物で代用したり、改造したりもするそうです。

ステージにくぎ付け！

12月7日、吉見保育園の発表会で園田夫妻がマジックを披露しました。リズムの良い音楽とともにステージ開始。ステッキが花に変わったたり、破れたパラソルが一瞬で元通りになったりと、次々と目の前で繰り広げられるマジックに、会場中がくぎ付けに。「赤ちゃんもじーっとステージを見ていましたね！」と先生も驚くほど好評でした。最後は皆で風船で物を作るパルーンアートに挑戦。保護者がウサギを作り、子どもたちは大興奮！会場中に笑顔があふれていました。同クラブはメンバー募集中のこと。これからもマジックで笑顔の輪を大きくしていくことでしょう。

★一緒にマジックをしませんか
園田 266-3748

- ①人気のパルーンアート。風船でフグができました！
- ②巧みなカードマジックに驚きの連続。
- ③定例会でマジックを披露中。メンバーたちの目も真剣。
- ④和気あいあいと活動するクラブの皆さん。会長の園田さんは前列右から2番目。
- ⑤吉見保育園でマジックを披露する園田夫妻。



⑤マジックスタート!!

大きな卵登場！

卵の中からハトが!!

ハトを箱の中に入れて…

フワフワな羽毛に変わっちゃった!!